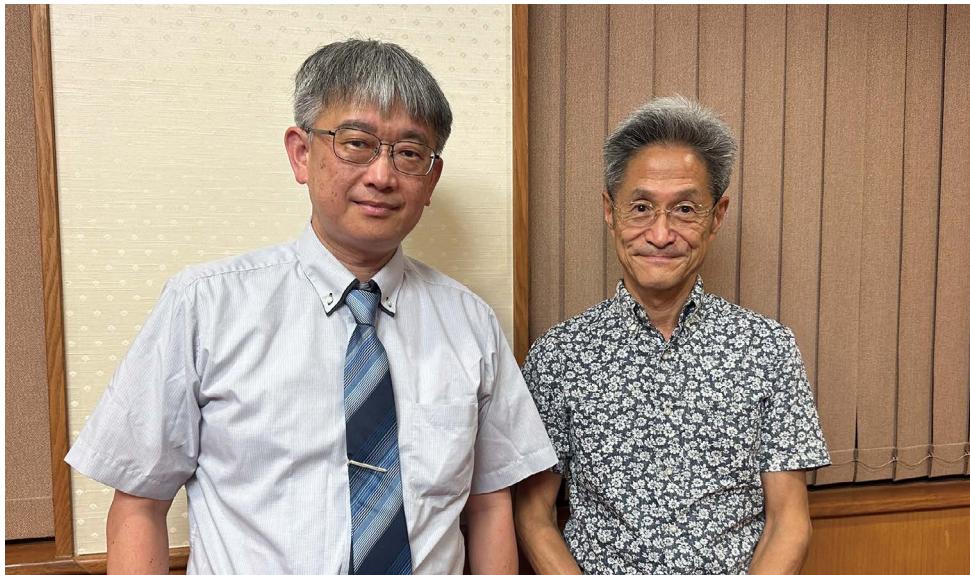


琉球大学大学院医学研究科 放射線診断治療学講座 教授 西江昭弘 先生



出口先生> 先生は、2021年7月から琉球大学大学院医学研究科 放射線診断治療学講座教授にご就任されております。遅ればせながらご就任おめでとうございます。

先生には早々に県医師会の広報委員をして頂いており、先生へのインタビューよりも先に本コーナーのインタビュアーを務めて頂いており申し訳ございませんでした。

では早速ですが、2021年のご就任から約4年が経過しました。この間を振り返って、特に印象に残っている出来事や今後の展望についてお聞かせください。

西江先生> 出口先生、ありがとうございます。まずは自己紹介からですが、私は九州大学医学部を卒業後、九州大学の放射線科に入局しました。当時は専門の診療科に直接入局していましたが、初年度に研修を行った関連病院の

放射線科部長の計らいで、まずは内科を半年間ローテーションしました。診療の基礎を学ぶことができて本当に有益だったのですが、他の同期と比べると放射線科医としての技能に劣っていたため焦りもありました。しかしながら、この内科研修はかけがえのない財産になっており、今でも当時の内科研修医の先輩や指導医の先生方とは飲みに行く仲です。その後は大学、関連病院で放射線科の研修を受け、大学院へ進学しました。上司の先生の勧めもあって、放射線科医としては稀かもしれません、基礎系の講座で4年間お世話になりました。中々思い通りの実験結果が出ないことで、研究の厳しさを痛感した一方、理論的な思考過程を直に学ぶことができ、研究に興味を惹かれるようになりました。大学院卒業後は、診療のブランクが長くて不安だらけでしたが、大学に勤務することになり、それ以降2年間の米国留学を挟む以外は、ずっと

と大学で画像診断医として診療、研究、教育を継続してきました。実績とは言えませんが、同門会や学会の事務局、学会の大きなプロジェクトなどにもしばらく携われたことは、大変だった記憶の方が多いものの、良い経験となっています。そのような中、縁があって、4年前から琉球大学にお世話になることになりました。

この4年間は本当にあつという間で、私自身驚いております。赴任した当初はコロナ禍の真っ只中でしたが、それまでの経験を活かして、沖縄県の放射線医療に貢献すべく、画像診断、IVRと放射線治療がバランス良く融合したような診療、教育、研究を行っていきたいと考えていました。もちろんその気持ちは今も変わっていません。

しかしながら、実情を把握するにつれて、沖縄県の放射線科医不足を実感し、放射線医療の向上のためにはマンパワーの充実（新入局員の勧誘）に努力をしてきました。もう一点意識していたのは、①大学と他大学・他施設、②放射線科と病院・各診療科、③医局と医学生・研修医、④放射線科医と他職種など、普段の医療には色々な関係がありますが、風通しが良く、良好で効率的、かつ生産性の高い「連携」になります。特にマンパワーの充実のためには③の関係が重要ですが、医局のアピールとしてHPを刷新し、新たにInstagramやYouTubeを組み込んで医局内の雰囲気も新たに伝えています。ぜひ一度ご覧いただけましたら幸いです。

一方、この4年で特に印象に残っているのは、やはり今年の病院移転でしょうか。これまで研究棟の改修に携わる経験がありましたので、大方想像はできていましたが、担当の先生方の入念な準備のもと、放射線科・放射線部では重大な問題はなく完了できました。いきなり教授室ではサッシが閉まらないトラブルがありましたが、大変眺めがよく、空気の入れ替えも可能な部屋に私も大変満足しています。院内には新たにバイブリッドER、研究用3T MRI、IVR-CT、放射線治療や核医学関連機器などが導入され、これらをどう有効活用するかを考えながら、



新鮮な気持ちで診療を行っています。もう一つ挙げるとすれば、医局旅行でしょうか。以前の勤務先では医局旅行を行っていなかった関係で、約20年ぶりの参加となりました。医局には企画力のある先生が多いので、想像以上の計画を練ってくれます。以前の、①建設中の新病院を展望しながらの昼食会、②沖縄アリーナでの琉球ゴールデンキングスの試合観戦、③沖縄アリーナ近くのバーでの3次会は最高でした。来年はジャングリアが医局旅行の候補の一つになっている（？）とのこと、新たな楽しみができます。

出口先生> 今はどこの教室も教室員が十分でない中で、臨床・教育・研究が大学の使命と言われていますが、西江教授が目指されている講座運営の方針等についてお聞かせください。

西江先生> 大学では診療、研究、教育、そのいずれもが高いレベルで求められます。診療中に生じた疑問や問題点を解決すべく、若手医師と一緒にになって検証を行い、その結果を自身だけに留めることなく公表していくことで全体の医療レベルが向上する、そういう正のサイクルを繰り返すことができたらと思います。本土と異なり沖縄県で頻度の多い疾患がありますが、そのような疾患の画像診断や放射線治療については琉球大学の責務として精力的に関与していきます。地理上の理由から沖縄県では診療を自己完結する必要性がありますが、放射線医

療も同じです。Interventional Radiology や核医学診断など、人的ソースが限られることで沖縄県全体に行き届いていない放射線医療分野もありますが、関連病院と連携して人材育成を行い、県内に満遍なく一定レベルの放射線医療を届けられたら理想です。赴任から 4 年が経過していますが、まだまだこれからだと思います。

出口先生> 先生の教室で特に力を入れている研究・活動があればお聞かせください。

西江先生> 研究に関しては、先ほどお話ししました沖縄県で頻度の多い疾患として、弾性線維腫の画像診断について多角的に取り組んでいます。あとは CT や MRI の画質向上に関する研究を、放射線技師さんや企業の方と協力しながら行っています。活動として力を入れているのは、研修医の教育でしょうか？医局内のカンファレンスや勉強会を増やして系統的に学べる環境を作ることと、沖縄県として弱い放射線医療分野である、Interventional Radiology や核医学診断の人材育成をある程度戦略的に行ってています。

私自身はこれまで腹部の画像診断を専門に行ってきました。その中でも肝臓が最も得意な分野です。以前の画像診断では、神経、肺、肝臓の 3 つがメインの研究対象となっており、どの学会でもこれらの演題が多くを占めていました。画像診断関係の研究は経時的に変遷しており、私が入局した頃は病理の最終診断をいかに正確に行うことが求められていましたが、次第に詳細な病理像、例えば細胞悪性度など、さらには治療効果や 5 年生存率のような予後予測に関しても言及するような時代になってきています。現在は画像を用いた AI (artificial intelligence) や Radiomics 解析（ヒストグラム解析）が行われています。AI が放射線科医の仕事を奪うと言われてもう 10 年が経ちますが、現場では一向にその気配はなく、実用化されている AI ソフトを見ても数種類のシングルタスク（肺結節を見つける、脳動脈瘤を見つけるな



ど）に限られています。そのため頭の中でタスクを瞬時に変えることのできる放射線科医を凌駕する時代は当分は来ないだろうと信じています。代わりに放射線科医が見逃しやすいようなタスクを AI がサポートしてくれる良好な関係になるのではと思います。実際に自分で AI 構築をトライするとわかりますが、優秀な診断モデルは簡単にはできません。現在の琉球大学でも肝胆膵あるいは泌尿器のカンファレンスには積極的に参加していますし、肝臓移植関係の委員会にももなく出席していますので、この気持ちちは継続していきたいと考えています。一緒に研究を行ってくれる若手の放射線科医を大募集しています。

出口先生> 沖縄県医師会に対してのご意見・ご要望がございましたらお聞かせください。

西江先生> 早いもので、私も県医師会広報委員を 3 年近く担当させていただいているが、大学にいるだけだと思いもしない地域の問題がよくわかります。会議での論点も少し異なりますし、もっと医療を多角的にみることができるように思います。委員の先生方のご発言だけでなく、会誌の内容から現在の情勢が推測できますし、自分の考えが偏らないような効果を感じます。沖縄県に最も貢献できることは県内全体の放射線医療レベルの均てん化だと思いますが、それに医師会の先生方からのご指導、ご鞭撻をいただくことで、より適正な医療体制を

構築できたらと考えている次第です。今後もぜひ多くの意見交換の場をいただけましたら幸いです。

出口先生> 貴重なお話ありがとうございます。そろそろインタビューの終盤に近づいてきました。

このコーナーでは最後に、日頃の健康法、ご趣味、座右の銘などを聞かせていただいています。

始めに日頃の健康法やご趣味、座右の銘について教えてください。

西江先生> 日頃の健康法については大反省しないといけないのですが、これと言って行っていないのが現状です。しばらくダイエットを行って適正体重に近づけていたのですが、这一年くらいでほぼ元に戻ってしまいましたので、また意を決して再開したいと考えています。休日だとたまに散歩したりはしますが、継続できていませんので、今後はしっかり心を入れ替えて健康面にも気遣っていきたいと思います。

これは趣味とまでは言えませんが、ラーメンが好きなので、運転中に偶然見かけたお店や、医局の先生からのお勧めの店に行ったりしています。赴任する前は、沖縄県はラーメン店が少

ないと聞いて心配していたのですが、取り越し苦労だったように思います。ただ琉球大学本学近くのお気に入り店が閉店してしまい、少し残念に思っているところです。

座右の銘については、一つ挙げるとしたら、最も分かりやすく言うと「ピンチはチャンス」、ことわざだと「禍を転じて福と為す」でしょうか。若い頃は自分の不運を嘆くだけでしたが、40代後半～50代に入って少し考え方を変え、悪いことが起きてもそれを悲観するだけでなく、長期的には他の何かに役立つようなことがあるのではと考えるようになりました。どちらかと言うとネガティブな発想の人間でしたが、現在はかなりポジティブシンキングできるようになっています。そうすると精神面でもあまり気分が落ち込まなくて済みます。

出口先生> ありがとうございます。先生はスポーツがお好きだということをお伺いしまして、Bリーグ観戦などを教室の皆さんとされたというお話でした。それから、先生ご自身も卓球をされていたということで、Tリーグの琉球アステイダの卓球スクールにも参加されているというお話を聞いていますが、その辺りのお話を少し聞かせていただけたらと思います。



西江先生> スポーツについては、休日でしたら、TVで放送されているスポーツ番組を、チャンネルを変えながら連続で見てています。今までそのスポーツのルールなどは、自分で勉強するというよりは、テレビで見てそのまま覚えていました。留学中も同様ですが、アメリカンフットボールも実際にずっと見て、「あ、こんな感じなんだ」と思いながら理解してきたところはあります。

大学生時代には卓球部に所属していましたので、今でも卓球観戦が一番多いかもしれません。健康の面も考えて卓球の練習をしたいなと思っていますが、なかなか相手がないのもありますし、実際に時間が作りにくいものもあるので、どうしようかなと思っていたところ、琉球大学の横を通ったら、琉球アスティーダの卓球スクールのようなものがありました。

出口先生> 大学の近くにあるのですか。

西江先生> はい。琉大医学部ではなく、本学の方です。「どういうスクールだろう」と思って調べてみると、教えてているということだったので、そこに参加しました。

しかしながらですね、シニアのスクールは時間帯が決まっていて参加しにくかったことと、

膝が痛くなったりしたのもあります。ちょっと年齢には叶わず2回しか行ってないんです。今後、また参加を検討して行けたらなと思っています。

あとは、最近テレビで卓球の放送が結構増えています。人気がある選手の影響でテレビ局が放送するようになっていて、最近はよく見る機会も多いですが、やっぱり生で試合を見たいなということで、沖縄にはTリーグのプロチームがあるので、一度、琉球アスティーダの試合も見にいきました。非常に有名な張本選手がまだ所属していましたので、一番良い席を予約して、本当に間近で見たというのが、いい思い出になっています。実は試合前の練習風景を見学できるのも楽しみの一つでしたので、試合開始の2時間前から会場入りしていました。

出口先生> 今後も先生ぜひ卓球で健康づくりを続けていただけたらと思います。

先日、佐々木先生（北部病院院長）にインタービューさせて頂いた際に、北部病院でも業務終了後に会議室でみんな集まって卓球をやっていました。

西江先生> そうなんですか。それはどなたが始められたんですか？



出口先生> そこはお伺いしていないのですが、卓球する機会を設けられて、続けられたら良いですね。

西江先生> 実はですね、言い忘れてましたけど、昨年から卓球部の顧問に就任しまして、時々ですね、学生が来て色々相談事があつたりとか、「練習に来てください」みたいな感じで言われています。新病院になってから、卓球部も新しい体育館で練習ができるようになったので、いつか覗きに行こうかなと思っています。ある意味、卓球スクールに行かなくても、大学の体育館に行くことで健康を保てるのかもしれません。

出口先生> 新病院には新しい体育館もできたのですか？

西江先生> はい。今まで、残念ながら練習の枠がなかったようですが、新病院になった時に配慮してもらい練習枠を作れたんです。どこかのタイミングで行ってみようと思っているのと、あと学生の皆さんからユニフォームを貰いまして、普通に着るのはもったいないので教授室に飾っています。

出口先生> 素敵ですね。本日は長い時間ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

　　インタビュアー：広報委員 出口 宝



PROFILE

学歴・職歴

平成 6年 3月25日 九州大学医学部医学科 卒業
平成13年 3月26日 九州大学大学院医学研究科 機能制御医学系専攻 修了

職歴及び研究歴

平成 6年 5月16日	国家公務員等共済組合連合会 浜の町病院 放射線科(研修医)
平成 7年 4月 1日	九州大学医学部附属病院 放射線科(研修医)
平成 8年 1月 1日	福岡市立こども病院・感染症センター 放射線科
平成13年 4月 1日	九州大学医学部附属病院 放射線科 医員
平成15年 9月 1日	九州大学大学院医学研究院 非常勤学術研究員
平成16年11月16日	University of Iowa, Department of Radiology, Visiting assistant professor
平成18年11月 1日	九州大学医学部附属病院 放射線科 助手
平成19年 4月 1日	九州大学医学部附属病院 放射線科 助教
平成21年 2月 1日	九州大学医学部附属病院 放射線部 助教
平成21年 7月 1日	九州大学医学部附属病院 放射線部 助教講師
平成23年 4月 1日	九州大学医学部附属病院 放射線科 助教講師
平成26年 4月 1日	九州大学大学院医学研究院 臨床放射線科学分野 講師
平成28年 4月 1日	九州大学大学院医学研究院 臨床放射線科学分野 准教授
令和 2年 7月 1日	九州大学大学院医学研究院 先進画像診断・低侵襲治療学共同研究部門 教授
令和 3年 4月 1日	九州大学大学院医学研究院 放射線医療情報・ネットワーク講座 教授
令和 3年 7月 1日	琉球大学大学院医学研究科 放射線診断治療学講座 教授 現在に至る

所属学会および研究会

日本医学放射線学会、日本磁気共鳴医学会、日本核医学会、日本腹部放射線学会、日本IVR学会、日本肝臓学会、日本肝癌研究会、日本癌学会、Advanced Medical Imaging研究会、日本医用画像人工知能研究会、Radiological Society of North America等

専門医および認定医

日本医学放射線学会専門医(平成11年9月1日)
PET核医学認定医(平成26年8月1日)